

Lesson 5 First Blues Lick

Lesson 5 ブルースリック#1

いよいよブルースリックだ。

まずは高い G 音（1 弦 3 フレット）から低い E 音（6 弦開放）までストレートに下がってくるペンタトニックスケールを使ったフレーズだよ。

1 度弾いてみるけど、こんな感じのテンポでやるよ（0:20）。今後もよく出てくる速さだよ。

そしてコードは以前のレッスンで学んだ E だ。ここではあまり深くは掘り下げないけど、中指がここ（5 弦 2 フレット）、薬指がここ（4 弦 2 フレット）、そして人差し指がここ（3 弦 1 フレット）。あと残りの弦は開放だ。

-playing(0:54)-

今 2 回弾いたんだけど、1 回目の時は低い E（6 弦開放）は弾かなかった。こんな感じでやったよ…

-playing(1:22)-

（TABLATURE の 1 小節目 4 拍目真ん中の 6 弦開放 E を弾かずに）少しスペースを開けたよ。もちろん、低い E（省いた 6 弦開放）を弾くパターンもあるよ。

-playing(1:31)-

こんな感じだね。

(1:38)

これが一番最初に学んだ開放弦を絡めたパターンのペンタトニックスケールだったよね。

このリックに前後を付けて、一つの流れの中で弾くと、さっきやったような感じになるんだね。

-playing(1:56)-

(2:19)

気付いたかもしれないけど、僕は開放弦をこんな感じ（弦をブラッシングする感じ）でやる。

もしその時に（キーから外れた）不協音があればやらないけど、以前にも言った通り、ギターという楽器は元々（E マイナー）ペンタトニックスケールと同じ構成音でチューニングされている。

だから、全開放弦をこんな感じで（2:37）かき鳴らしても問題ないんだ。決して不協和音にはならない。

-playing(2:49)-

【注記】

- ・押弦するポイントについて Robben は様々な言い方をしていますが、ここでは「5 弦 3 フレット C」「6 弦開放 E」などの表記に統一します。
- ・翻訳モノにありがちな読み難さの一因となっている「直訳」を排除した結果、Robben の実際の言葉とは若干違った表現になっている箇所がありますが、読者にとってのストレスのない自然な理解を促すためのものであり、Robben が言わんとしていることはそのままに、大局を損なうことのない翻訳を心がけました。
- ・モードの解説において「○○スケール」と「○○モード」の言葉の使い分けはせず、Robben の言に最大限忠実に訳しながらも、より理解をしやすいように、柔軟にそれぞれを言い換えて訳しているケースもあります。 翻訳 山岸敦